

## 8 できたぞ、スーパー種雄牛！「福芳土井」と「福俊土井」

## ねらいと成果

肉質、肉量ともに優秀な種雄牛を造成するために現場後代検定法を実施している。2002年度は鶴伸土井、代幸土井、鶴南土井、照岸土井、福俊土井、福芳土井の検定を終了した。検定成績をもとに育種価を算出したところ、谷福土井の後継牛として特に注目されていた福芳土井と福俊土井が質量兼備の抜群の能力を持っていることが判明し、今後の活躍が大いに期待される。

## 内容

現場後代検定法は、1種雄牛当たり16頭の産子を検定調査牛とし、肥育農家と北部農技で8頭ずつ肥育して得られた枝肉結果から種雄牛の産肉能力を判定するものである。2002年度に検定が終了した種雄牛についてその検定成績を表1に示す。

原則として去勢牛を供試するが福芳土井は去勢牛が9頭、雌牛が7頭であった。検定期間中の1日当たり増体量(DG)は鶴伸土井が0.67kgで最大であったが、枝肉重量では福芳土井が去勢牛405kg、雌

牛でも398kgと最大であった。ロース芯面積、バラの厚さ、脂肪交雑でも福芳土井の雌牛が抜群の成績であった。これらの枝肉成績をもとに各種雄牛の育種価を算出し、表2に示す。

肉質が良く肉量も多くとれる能力を持つ種雄牛が熱望される中、福芳土井の枝肉重量の育種価は31.2kg(県下の上位0.18%に位置)、脂肪交雑1.355(上位3%)と特に枝肉重量で高く評価された。福俊土井は脂肪交雑が1.456(上位1.4%)、枝肉重量19.4kg(上位2.3%)と特に脂肪交雑で高く評価された。福芳土井については初期に出荷された8頭分(去勢7、雌1)のみで算出されているため今後の育種価評価ではさらに高くなる見込みである。

## 今後の方針

両牛とも質量兼備型の種雄牛として2003年度から供用する。またさらに肉質肉量の優れた種雄牛を造成するためにより一層の検定精度の向上を図っていく。野田 昌信(北部農技・畜産部)

表1 現場後代検定成績(平均値)

種雄牛名	鶴伸土井	代幸土井	鶴南土井	照岸土井	福俊土井	福芳土井	
						去勢	雌
検定期間中DG	0.67	0.63	0.55	0.57	0.62	0.66	0.59
枝肉重量(kg)	366	376	355	359	391	405	398
ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	45	52	46	48	50	48	55
バラの厚さ(cm)	6.5	6.6	6.2	6.6	6.9	7.1	7.6
皮下脂肪厚(cm)	2.7	2.2	2.1	2.3	2.4	2.9	3.3
歩留基準値(%)	72.6	74.1	73.3	73.6	73.6	72.8	73.6
脂肪交雑(12段階)	3.7	4.7	5.2	4.6	5.7	5.1	6.9

表2 検定牛の枝肉成績をもとに算出された育種価

種雄牛名	鶴伸土井	代幸土井	鶴南土井	照岸土井	福俊土井	福芳土井
枝肉重量(kg)	-15.9	-17.8	-36.1	-15.7	19.4	31.2
ロース芯面積(cm <sup>2</sup> )	0.78	6.14	-2.08	4.32	7.58	5.43
バラの厚さ(cm)	0.19	0.05	-0.38	0.05	0.44	0.61
皮下脂肪厚(cm)	-0.24	-0.87	-0.83	-0.41	-0.36	0.15
歩留基準値(%)	0.62	1.89	0.61	1.20	1.40	0.54
脂肪交雑	1.126	0.963	0.981	1.379	1.456	1.355